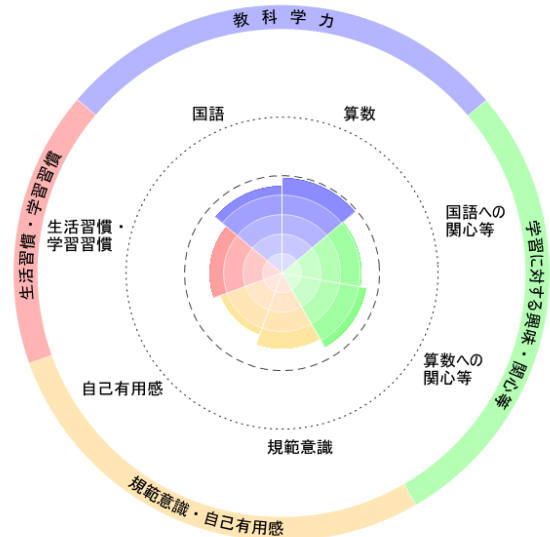
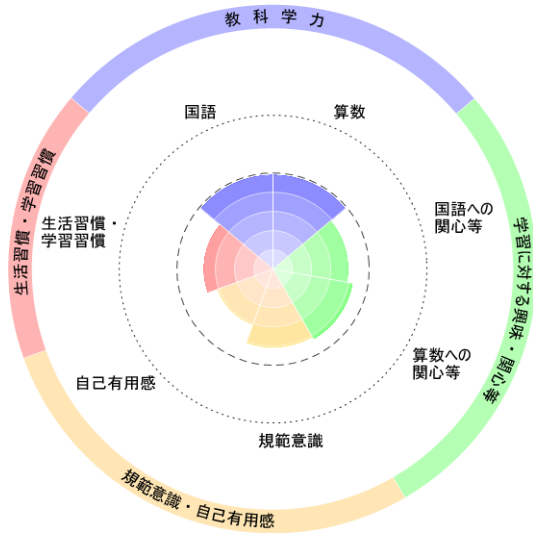


令和元年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

令和元年度の全国の小学校6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果の概要をお知らせします。

児童質問紙 (神奈川県基準)

児童質問紙 (全国基準)



		山下小学校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
国語	平均正答率 %	59	61	63.8
	本校との違い		-2	-4.8
算数	平均正答率 %	65	67	66.6
	本校との違い		-2	-1.6

<児童の生活意識調査>

- ものごとを最後までやりとげ、達成感を感じたことがあると答えた児童が多いです。学校生活の中でも、引き続き、目標をもち、その実現に向かって個人や集団で取り組めるように指導していきます。
- 読書を好きと答えた児童、地域行事に進んで参加していると答えた児童が多いです。落ち着いて自分の時間を過ごしたり、進んで地域の人と関わったりできる山下小学校の児童の様子が表れています。
- 全体の様子として、自己有用感が低い傾向にあります。大人や友達からの温かい言葉かけ、学習や生活の中の成功体験が、豊かな心の育成につながります。学校と家庭で連携して、子どもの心の教育にあたる必要があります。
- 算数と比べて国語についての興味・関心がやや低くなっています。単元を通して取り組む言語活動を意識させ、児童の「わかる・できる」を大切に授業の工夫・改善をしていきます。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと答えた児童が多いです。児童が必要感をもって、主体的に課題解決にあたることのできる授業作りを引き続きしていきます。

<学習状況>

国語：「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」や「ことわざの意味を理解して、自分の表現にも用いる」では、比較的正答率が高くなっています。一方で、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」では、誤字や無答が他の問題に比べると多いです。

算数：「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる」や「目的に適した伴って変わる二つの数量を見出すことができる」では、比較的正答率が高くなっています。一方で、5年生までの既習内容を使って、考え方の説明をすることは、図形でも計算でも苦手としている児童が多く見られます。

国語においては、言語活動の充実を教科横断的に取り組み、基礎基本の定着を図ります。「書く」活動では、漢字を正しく使って文章を書く力を向上させるように指導します。算数においては、既習事項を使った課題解決学習を積み上げていけるように、系統的な指導を行います。そして、児童が生活の中で活用できる力を育てていきます。